

1. 評価報告概要表

作成日平成 21年 8月 28日

【評価実施概要】

事業所番号	1072300195
法人名	株式会社トミタ
事業所名	グループホームにこにこ倶楽部
所在地	高崎市吉井町馬庭50 (電 話) 027-388-3000
評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成21年7月15日

【情報提供票より】(平成21年 7月 6日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成14年3月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	31 人	常勤 14人, 非常勤 16人, 常勤換算	18.25人

(2)建物概要

建物構造	木造耐火構造物造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円

(4)利用者の概要(7月 6日現在)

利用者人数	27 名	男性	4 名	女性	23 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	11 名	要介護4	5 名		
要介護5	5 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.9 歳	最低 70 歳	最高 98 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	慈光会病院、吉井中央診療所、佐藤歯科、富岡総合病院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、門前から田畑が一望できる閑静な住宅街の一隅にあり、庭木等により来所しやすい雰囲気を醸し出している。3ユニットあるものの食堂兼居間をはじめ、玄関、連絡通路等の生活空間は、温かみとゆとりを感じさせる設計になっており、天窓やソファ、壁面の写真や入居者個人の私物が、安寧した生活感を助長させている。運営者以下、全てのスタッフがホームの理念に基づいたサービス提供のあり方を日々模索し、さらに質の高いサービス提供、人材教育、ホーム運営等のあり方を、母体組織一丸となって目指している。また、地域住民との日々の交流、自治体の関係機関・関係団体との協働を通して、地域に根ざした活動を継続的に発展させていっているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営推進会議について、構成委員の見直し、議題の進め方の検討を行い、討議内容をサービス向上に反映させるように努めている。また、火災報知システムの導入をはじめ、現実的な災害対策マニュアルの作成、地域住民や消防等と連携した避難訓練の実施に向けた準備等に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者が、各ユニット会議で上がってきた日々の取り組みの中での職員の意見を聞き、必要書類を作成している。また、前回評価の結果を省みて取り組んできたこと、自己評価及び外部評価結果を家族に公表して指摘されたことを重視し、今回の自己評価に臨んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	参加者の固定化や変わり映えの無い議題による運営推進会議から、有意義な会議の実施に向け、構成委員の見直しや議題の進め方の検討を行っている。また、市町村合併に伴う制度やサービス提供のあり方が見直されることで、入居者へのサービスの質が低下しないよう、ホームの理念に基づくスタッフ個々の関わりが揺るがないよう、自治体の関係機関・関係職種と積極的に話し合いの機会を持っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	サービス契約時に、ホームの苦情相談窓口のシステムを説明し、市や県の窓口についても紹介している。また、意見箱を設置しての意見や要望の聴取、毎月発行の「ニコニコ通信」による入居者の様子の報告をしている。また、家族面会時には、入居者に対する具体的なケアや接遇等の希望を聞いたり、入居者の日々の暮らしぶりや金銭の立て替え等の詳細を報告している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	草むしりや道路清掃等の自治体の行事への参加をはじめ、クリスマス会やお花見会等のホームの行事に近隣の幼稚園や民生委員を招待したり、小学生による読み聞かせを受け入れたりしている。また、散歩の途中に、柿を自由に取らせてもらえる住民の家に寄ったり、近隣の山で収穫したふきのとうをお裾分けしてもらえるような近所付き合いが行われている。

2. 評価報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者が父であり母でありホームが家庭で、心のこもった介護を提供する」を理念に掲げ、日々取り組んでいる。県内外に法人の事業所があるが、良い部分は踏襲しながらも「にこにこ倶楽部」独自の理念を掲げている。制度改正以前から、地域住民や地域の関係団体・組織と共にあるホームとしての理念を謳っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼で理念の復唱をしている。ケア会議では、理念を基本にしたケア実施にむけて、計画を作成している、スタッフは日々実践で悩んだ時には、理念を考えて取り組んでいる。地域密着型サービスを視野に入れ、散歩の時などに地域の人と触れ合える機会を作っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	草むしりや道路清掃など地域活動に参加したり、ホームのクリスマスやお花見には幼稚園の子供たちや民生委員を招待したり、小学生の読み聞かせを受け入れたりしている。散歩途中の道路には地域の方の柿の木があり、「何時でもとって」と言われるなど関係づくりができています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、ユニット会議で職員の意見を聞き管理者がまとめている。外部評価は会議で報告し、介護計画の了承を家族からサインを受けるようにするなど検討し改善している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、事業所の行事を報告し、出席者の民生委員が花見に参加している。21年度に改めて構成委員の見直しを行ったり、運営推進会議の進め方を検討して、今後会議での意見をサービス向上に活かせるようにしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険の改正に伴う説明会への参加や担当課職員へ相談等を行っている。事業所の空き情報の確認や生活保護の利用者の情報交換をしている。	○	高崎市と吉井町の合併により、介護保険制度の規程内容や規定に基づくサービス提供等の解釈の違いが出てきているため、市からの指導を仰いだり、担当課職員との相談を行う等の連携する機会を多くすることを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行している「ニコニコ通信」に、入居者の様子を写真で載せて報告している。介護計画の修正時は、同封しサインを頂き了承を得ている。また、面会時には、家族の希望を聞き、入居者の暮らしぶりや金銭の立て替えなどを報告し、了承を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	直接言いたくても言えない入居者・家族のために、また近隣の方が意見が表せる機会として意見箱を設置している。また、外部の苦情処理窓口を契約時に説明している。家族からの要望で夫婦の居室を別ユニットに分けてほしいと希望があり、3ユニットもつ事業所の機能を活かし要望を反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職は入居者への影響を考慮し、全体に説明を行う場合もあれば、不穏状態であったり、不穏になる可能性のある入居者には説明をしない場合もある。また、離職する職員本人が説明を行う場合もあれば、管理者等が代行する場合もあり、状況に応じた対応を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修や医療機関での研修に参加し、受講後はケア会議で伝達講習を行い研修を共有している。日常業務において現場教育を重視し、職員を職員が育てる仕組みを作っている。職員には若い人から熟練者がいて、職員間、利用者それぞれの良さを活かしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は地域の他事業所や地域密着型サービス連絡協議会等で積極的に情報交換やアドバイスを求めていた。現在は、同法人の他のグループホームと連携して、事業所運営や介護の方法等について情報交換を行い、サービス向上に努めている。	○	今後も継続して他法人の事業所と関わりをもち、事業所外の意見を活かしたり、実践的な交流や連携が行われることを期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族や本人に事業所を見学してもらっている。入居時には、プロフィール表に生活歴や趣味など詳細に記入して、把握に努めている。個人差も考慮して、徐々に馴染めるように家族に説明し面会を1週間位控えて頂いたり、対応の仕方のキーワードを探り職員が同じ対応に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	事業所の中庭で野菜を栽培し、草むしりやじゃがいも等の収穫を入居者に教わりながら行うなど、共に過ごし支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、自然に訴えることが出来る入居者、言えない入居者、職員により表現が違う入居者などを把握し、一人ひとりに合った対応で思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケア会議で職員からの意見を聞き、家族から情報収集や希望を取り入れて介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員は、日々のケア援助で気づいたことを「連絡ノート」に記入し、ケアマネージャーは記録した内容を介護計画の修正に活かしている。急激な変化においては、日々の記録を確認してケアを実施し、後日介護計画を修正をすることもある。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	緊急性のある受診では職員が送迎を行ったり、入院中は治療や退院に向けて意欲的になってもらうよう面会を行ったり、病院関係者との話し合いから、退院後の体制の整備やケア方針の確立・注意事項の把握をしている。また、洗濯等を代行している。今後は、デイサービスやショートステイの検討もしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関の説明を行っている。家族や本人からかかりつけ医の受診希望があれば、受診できるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の指針を定め、入居時に家族に説明している。重度化や終末期のあり方の家族の希望を聞き、全職員及びかかりつけ医等で共有し看取りを行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	基本的に入居者は目上の人なので敬語を使用しているが、相手に合わせた話し方や対応を工夫している。また、記録等の個人情報の保護の徹底を指導している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースで食事を援助したり、希望時に散歩に付き添ったり、筆で字を書く入居者には準備するなど、入居者それぞれの生活リズムに合わせ、その日をどのように過ごしたいか希望に沿って支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みを聞き、おにぎりなど入居者の希望を取り入れたり、敷地内で収穫したトマトを摂取するなど、食事が楽しむことが出来るよう支援をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	3ユニットで風呂を使用しているため、毎日入浴の準備をしており、一番風呂が好きな入居者、何人かで入りたい入居者など一人ひとりの希望を聞きながら支援している。入浴拒否などの時は、日を変えて誘導したりシャワーや清拭なども対応している。ゆず湯や菖蒲湯、入浴剤など入浴が楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりの生活歴や得意分野の把握を行い、土いじりの好きな入居者には敷地内の球根植えや草むしりをして頂いたり、家事の好きな入居者にはテーブル拭きや掃除、洗濯物をたたんでもらっている。その他、トランプやボール投げなど楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所周辺の散歩や近隣の郵便局などに出かけたり、季節には花見やリンゴ狩りなどのドライブに出かけている。また、系列事業所に広大な畑があり、芋ほりやスイカなどの収穫を楽しみに出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は家族に相談しながら安全を考え鍵をかけているが、それぞれのユニットには自由に移動が出来、ユニットが面する中庭には自由に出入れるようにしている。	○	安全の確保を第一としながらも、鍵をかけられているという状況を再度検討し、鍵をかけない時間をつくるなど鍵をかけない工夫を期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災報知のシステムを設置し、避難経路や避難場所などを定めたマニュアルを作成している。避難訓練では、入居者も参加し、避難時間を測定している。今後、消防署や地域の参加も呼びかけ訓練していくことを検討している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮した献立表を作成している。水分摂取量、食事摂取量は毎食記録し、一人ひとりに応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼居間は広々しており、天窓からは柔らかな日差しが入る。窓際にはソファが置かれ、腰掛けて外が眺められるようにしている。居間の壁や玄関、3ユニットの連絡通路には、出かけた時の写真を掲示している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、家族と相談しながら自宅で使い慣れた戸棚や洋服ダンス、車椅子や位牌、写真などを持ち込み、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		